

平成27年度家庭教育応援プロジェクト 野木沢小親子の学び応援講座

◎期 日：平成27年9月19日（土）10：50～

◎実施PTA：石川町立野木沢小学校PTA

講師：駒谷 真美 氏 昭和女子大学大学院 生活機構研究科 人間教育学専攻
同大 人間社会学部初等教育学科 准教授

演 題：「楽しく上手にメディアとつきあうコツ」
～メディアルールを作ってみよう！～

参加者：児童（4～6年）62名 保護者・教職員47名

地域家庭教育県中ブロック会議関係者4名 県中教育事務所2名 合計 115名

【講 演】

- 10代世代はタッチスクリーン世代と言われ、使い方を説明しなくても感覚的にできてしまう。また、情報を全て信じてしまうマイナス面がある。
- 現代のスマートフォン（以下スマホ）はインターネット、ゲーム、カメラ等多岐にわたる機能があり、ものを調べるには欠かせない。学生の中には、手元にないと不安を訴える者も少なくない。
- ラインやフェイスブック、ツイッターやバイン等は、短い文章で楽しく会話のような感覚が得られたり、「いいね」ボタンで認めてもらえたり、つぶやきを追いかけていたりすることができるので、利用者には人気の高いアプリとなっている。
- その他にもゲーム、音楽等無料で体験したり聴いたりできるので若者の間で急速に広がっていった。しかし、無料ゲームの掛け金トラブル、アダルトサイトで高額請求されるといった金銭トラブルも発生している。
- SNS利用に関しては、危ない落とし穴も存在し、相手に気持ちが伝わらなかった時のリスクが大きく、児童生徒間では仲間はずれにあうことも多く、社会問題に発展している。
- オンラインゲームでは、なりすまし被害に遭遇することもあり、性犯罪に巻き込まれる危険もある。また、写真等を一度投稿すると消えないため、加工した画像がネットに流され、拡散されてしまうリスクも生じる。更には、ながらスマホによる事故、視力低下、睡眠不良、依存症といった健康被害も出ている。
- 今は小学生もスマホを持つ時代であり、ルールづくりが大切になってくる。

【過去において、子ども同士、保護者、親子、でつくったルール例】

- 子ども同士でつくった例・・・時間を決めて行う。（守れないときは親が取り上げる。）
- 保護者がつくった例・・・本来は親が貸しているものだという自覚を持たせる。話せる人とは直接話す。直接言えないことは投稿しない。スマホは家に置いて出かける。写真は送らない。
- 親子でつくった例・・・欲しい理由をしっかりと述べる。ルールを子どもが考える。ルールを習慣化していく。

